

～光の子として歩みなさい～

(聖書 エフェソの信徒への手紙5章8節)

NO.9 学校法人岩手キリスト教学園機関誌  
Aug.2023

# きらめき

特集 「幼児施設×書店」の新たな可能性



# 「自己肯定感」が育まれる場に



もりわけ かずき  
**森分 和基**

副理事長  
園長  
園長  
牧師

岩手キリスト教学園  
認定こども園宮古ひかり  
認定こども園めぐみ遠野聖光こども園  
日本キリスト教団宮古教会

疲れた者、重荷を負う者は、  
だれでもわたしのもとに来なさい。  
休ませてあげよう

(マタイによる福音書11章28節)

ハリールジブラーンという芸術家がいま  
した。彼は、今から100年以上昔の人で  
す。彼は夫婦でも精神的に自立した関係性を  
掲げ、そして、親子であつても精神的・人格  
的な自立を呼びかけています。さまざまな作  
品を残していますが、中でも「子どもについ  
て」という詩は、保護者も保育者にも一度は  
目に触れて欲しいと願っている詩の一つで  
す。

幼児施設では「主体性を育む保育」という  
ことが長年謳われています。主体性とは「自  
分勝手に振る舞って良い」と言うことではな  
く「自分で考え、行動し、責任を取る」とい  
うことだと思えます。近年、「深く考えず行  
動し、責任も取らない」事象が増えているの  
ではないかと思えます。ネットの誹謗中傷な  
どはその顕著な表れでしょう。

「自分で考える」の中には「自分の事も他  
者のことも大切に思う」ということが含まれ  
ているはずだと信じています。ダイバーシ  
ティとかインクルーシブという言葉が使われ  
るようになってきている中で、自分とは違ふ  
もの、異質なものの、立場の弱い人を攻撃、排  
除するのではなく、違いを喜び合い、受け入  
れあう社会であつてほしいと心から願ってい

ます。

ある研修会で「怒っている人は困っている  
人」と言われたことを印象的に覚えていま  
す。近年、自分が困っていたり、苦しんでい  
たりすることにさえ気づけず、イライラして  
いる人が多いように感じています。「困って  
いる」「や「助けて」が言えないのだろうと思  
います。他者に弱さや困り感を打ち明けるこ  
とが難しい世の中になつてきているのかもしれ  
ません。そのようなイライラが他者への攻撃に  
繋がるのかもしれない。

そのような社会は、本当に生きづらいと思  
います。困っていること、苦しんでいること  
を分かち合い、協力し合つて解決できる社会  
に出来ないかと願い、そして、そのような自  
分にも他者にも優しい子どもたちに育つて欲  
しいと願い、こども園での働きを考えていま  
す。

その基礎となるものが「自己肯定感」だと  
思います。そして、自己肯定感とは他者に愛さ  
れる、大切にされる、受け入れられることを  
土台とし、そして遊び込むという経験の中か  
ら育まれると信じています。

以前、NHKの特集番組で子どもに必要な  
遊具を検証したことがあります。小学校中学  
年を対象にした調査で、体を十分使つて遊ん  
でいない子どもほど、自分が好きではない、  
あるいは自分を必要ない人間だと感じている  
という統計結果が出たことが放送されまし  
た。これは、子どもたちにとつて「遊ぶ」と  
いうことが「自己肯定感」や「生きる力」を  
育んでいることを物語ると思えます。何か出

来ることが増えることよりも、納得して生き  
る力を育むことが大切なのではないかと考え  
ます。

これから、世界も日本も社会の仕組みが激  
変します。世界規模で見ると人口増加のため  
に食糧事情も含めて変わってくるでしょう。  
日本は反対に人口減少のために今の社会を維  
持することすら難しくなっています。その  
ような中で、子どもたちが大人になつたと  
き、自分と違つていいる人種、言語を持つ人  
達、全く違つた価値観を持つ人達と一緒に生  
きていくことが求められます。激動の時代を  
生きることになる子どもたちだからこそ、  
しっかりとした「自己肯定感」と「生きる  
力」をもつて育つて欲しいと心から願ってい  
ます。そのためにも、たくさん愛されて、安  
心して育つことが最も大切なのではないかと  
思います。安心できる環境で、遊びの中で育  
つからこそ、キリスト教保育の根幹だと信じ  
ています。

イエス様は「重荷を負う者、疲れた者はわ  
たしのもとに来なさい。休ませてあげよう」  
と言われます。それは、イエス様がおられ  
ば安心できるということでしょう。生きづら  
い世の中だからこそ、岩手キリスト教学園  
が、子どもたちにとつて、そして保護者や保  
育者にとつても安心できる場所を用意できれ  
ばと心から願っています。





特集

# 「幼児施設×書店」の 新たな可能性



学校法人岩手キリスト教学園は4月に盛岡市の(有)キリスト教センター善隣館書店の株式の半数を所有し事業連携することにした。善隣館書店は北東北唯一のキリスト教書店。キリスト教関連書籍をはじめ児童教育の専門書、絵本、児童書等に強みがあります。乳幼児期に出会う絵本は、子どもたちの心の成長にとって欠かせない存在。「幼児施設×書店」の新たな可能性を探り、子どもたちの豊かな情操の発達や保護者の子育て支援の働きを一層、充実させたいと考えています。季節は夏から「読書の秋へ」。親子で素敵な本に親しんでみませんか。





## 特集 「幼児施設×書店」の 新たな可能性

歌と絵本のミニコンサート  
認定こども園めぐみ遠野聖光こども園

遠野市の認定こども園めぐみ遠野聖光こども園で5月24日、善隣館書店・店長の佐々木章さんによるミニコンサートが開かれ、佐々木さんと園児たちの明るい歌声がホールに響きました。全クラスの園児と保育者合わせて約90人が参加。佐々木さんはギターを奏でながら「がんばれろばの子」「世界中のこどもたちが」「となりのトトロ」など10曲ほどを演奏しました。始めはちよつと落ち着かない様子だった園児たちも、どんどん引き込まれ、歌詞に合わせて踊ったり、手話賛美に挑戦したり。楽しいひとときを過ごしました。

大型絵本「わにわにのおふろ」（福音館書店）や「だるまさんと」（ブロンズ新社）のページをめくりながら歌う「絵本うた」も。語るような歌声とギターの音色が想像力をかきたてます。五感を存分に使って絵本の世界に浸った園児たちは満足そうな表情。「また来てね」と佐々木さんに拍手を送っていました。

### 五感を存分に使つて

この日は、未就園児と保護者を対象にした、子育て支援活動「聖光カングルークラブ（SKC）」での交流もあり4組の親子が参加。佐々木さんと一緒に歌や絵本に親しみました。小さな子どもたちにとってギターの弾き語りは初めての体験。佐々木さんがギターを奏で少し控えめの声で歌い出すと身を乗り出して耳を傾けます。「小さくても、こんなに聞く力があるんだね」。その真剣なまなざしに、周りの大人も感心しきりでした。

0歳児から読み聞かせできる絵

本「ぶうさんのプー」（福音館書店）は、楽しいとき、困ったとき、痛いとき、色々な感情の「プー」が登場します。ギターの音色が加わると「プー」に込められた感情が、より鮮やかにイメージできるようです。歌に合わせた手遊びもあり、スキップを通して親子の絆を深めました。8カ月の長女と一緒に参加したお母さんは「気持ちがあほっこりしました。どんなふうに絵本を読めばいいのか参考になったので、家でも試してみます」と笑顔で話していました。



## 善隣館書店

善隣館書店は盛岡市大沢川原三丁目の奥羽キリスト教センター（善隣館）の一画にあります。同センターは1931年に泉幼稚園が開設されたのをきっかけに活動の幅を広げていきました。戦中は建物が軍に接収され、米国人宣教師のシュレーヤ牧師夫妻が拘束されるなど大変厳しい環境に置かれたが、志を貫き再び戻った同夫妻ら牧師や教会関係者の努力で語学教育、開拓地支援など社会教育活動の拠点としての役割を発展させていきました。その中で善隣館書店は1968年ごろに誕生。初めは小さな棚に聖書や讃美歌集を並べて希望する人に販売するだけだったそうですが、少しずつ取り扱う書籍の種類を増やし教会を母体にした幼児施設にとつても、なくてはならない存在になっていきました。

佐々木さんが善隣館に就職したのは1977年。ゴスペルフォークが盛んに歌われていた時代で、聖歌隊に加わり活動しました。1988年には善隣館書店に移り、幼児施設や教会への本の紹介と販売を担当。幼稚

園や教会からギターの弾き語りによる賛美や子ども向けのミニコンサートを依頼される機会も増えていきました。現在、子どもの施設を中心に月2〜3回は演奏。絵本に合わせたオリジナルの弾き語りも喜ばれています。

### 小さい者を慈しむ

佐々木さんが、大切にしている一曲が「がんばれろぼの子」という子ども讃美歌。主イエス・キリストがりっぱな馬ではなく、子ロバに乗ってエルサレムに入場した聖書の記述を題材にしています。リズムカルなメロディーで前に進むロバの子を「頑張れ、よろよろするな」と応援する楽しい歌です。「どんな小さな者にも目を向け、慈しむイエス・キリストの教えが根底にあり、自分自身も元気づけられます」と佐々木さん。子どもたちに対しては「あまり説教ばかりすぎず、一緒に歌って楽しかった、という感覚を持ち帰ってほしい」と話しました。



### 普遍的な本の力

善隣館書店は良質な絵本や教師のための参考図書の紹介に力を入れています。専門家が選書した優れた絵本を毎月一冊ずつ家庭に届ける、キリスト教幼児教育ブッククラブ「こひつじ文庫」の取り次ぎの他、佐々木店長をはじめスタッフの大森紀代美さん、浜田陽子さんが太鼓判を押す絵本が毎月届く、善隣館書店オリジナルの大人のためのブッククラブも運営しています。

「絵本をはじめ本には時代を超えて大切なものを伝えていく普遍的な価値があります。活字離れやインターネットの普及など書店の経営難が言われて久しいのですが、まだまだその価値を知ってもらうための工夫の余地はあると思います」と佐々木さん。学園との連携により長年、蓄積されたノウハウをブラッシュアップし、次世代へ引き継いでいきたいと願っています。

# 伝えたい本の力

善隣館書店員の三人にお薦めの絵本を選んでいただき、本を通して感じたこと、伝えたいことを語っていただきました。



## たんぽぽ

1976年 福音館書店  
作・絵 平山和子

## 人生の本物を感じ取る

善隣館書店 店長 佐々木章さん

子どもたちは、絵本から人生の本物を感じ取っています。

以前、絵本「たんぽぽ」の編集者にお目にかかる機会があり、こんなエピソードを聞きました。社会に出て2～3年の青年から届いた長い手紙のことです。

青年は会社の中で色々な失敗があり、人間関係もうまくいかず、悶々とした日々が続いていたある日、ふと書店に立ち寄りました。そこで見つけたのが幼稚園の頃、読み聞かせてもらい大好きだった「たんぽぽ」の絵本。それを見つけた時のうれしさ、懐かしさは言葉にできない感動で、絵本を抱きしめたい思いにかられました、と記してあったそうです。

そして、手紙は幼稚園の頃、なぜ、この絵本が好きだったのか、改めて読んでみて分かりました、と続きます。たんぽぽの花は一つ一つの小さな花が寄せ集まって一つの大きな花に見えています。それに何と深く深く地中に根を伸ばしていることか。子孫を残すための健気な営みに、幼い頃の自分は気づかぬうちに感動していたのでしょうか、涙があふれ、自分も生きようと思いました、と結んであったそうです。

絵本の持つ力、奥深さを改めて感じずにはられません。（談）

## 善隣館書店教育振興募金のお願い

学校法人岩手キリスト教学園は、善隣館書店との事業連携による教育振興のため募金のお願いをしています。乳幼児期に出会う絵本は、心の成長のために欠かせない存在。同書店との協力により、子どもたちの豊かな情操の発達や保護者の子育て支援の働きを一層充実させたいと願っています。

郵便振替による募金のお振り込み

口座番号：02270-2-129076

加入者名：学校法人岩手キリスト教学園

※通信欄に「善隣館書店教育振興募金」とご記入ください。



(有)キリスト教センター善隣館書店

〒020-0025

岩手県盛岡市大沢川原3-2-37

奥羽キリスト教センター1階

TEL/FAX 019-654-1216

## 親子で楽しむ幸せな時間

善隣館書店員 大森紀代美さん

野ねずみのぐりとぐらの絵本は今年、生誕60年。ぐりとぐらの物語は計7冊出ていて、どれも長く読み継がれているロングセラーです。本作は、ぐりとぐらがカボチャ料理に挑戦。人間のすみれちゃんが持ってきたカボチャ一つからとっても楽しいお話が繰り広げられます。すみれちゃんのモデルは盛岡に実在した女の子。病気のため4歳で召天しましたが、おいしそうな食べ物が出てくる「ぐりとぐら」の絵本が大好きだったそうです。絵本の中で、すみれちゃんに楽しい時間を過ごしてほしい…。作者とご遺族との3年間の文通を経て、この絵本が生まれました。

子どものために、どんな絵本を選べばいいのか迷っている保護者の方もいるでしょう。絵本選びのブックリストはたく

さんありますが、私はロングセラー本をお薦めします。時代を超えて支持されるのは、きっと子どもの心を捉える普遍的な物語が描かれているから。お子さんに好きな本を聞いてみるのも大切なことだと思います。子どもが関心のあることを親子で一緒に楽しめる幸せな時間は本当に一瞬です。

私は子どもたちが大きくなった現在も、誕生日やクリスマスに時々、絵本を贈っています。絵本は大切なことがとてもシンプルに描かれていて、改めて読むと味わい深く、ひたむきに生きるのを励ましてくれます。図書館や本屋さんは物語のテーマパーク。買わなくてもいいのです。ぜひ、遊びに来てください（談）

ぐりとすみれちゃん

103年 福音館書店  
作・なかのりえこ  
絵・やまわきゆりこ



イエペはぼうしがだいすき

8年 文化出版局  
・文化出版局編集部  
著・石巻泰郎

## 多様性認める豊かさ

善隣館書店員 浜田陽子さん

イエペは3歳。デンマークのコペンハーゲンに住んでいます。イエペは帽子が大好き。家には100個も帽子があります。一番好きなのは茶色の帽子。散歩するときも、保育園に行くときも、朝食と就寝の時以外はいつも帽子と一緒に。家族や友達に囲まれてうれしそうに過ごすイエペの日常が写真で紹介されています。イエペの周りの大人は「～だから帽子を脱ぎなさい」としかったり、なだめたりはしません。礼儀や慣習よりも、その子のアイデンティティーを尊重し丸ごと受け止めます。

子どもの世界でも思い通りいかないこ

はなく、静かに寄り添い見守ります。どうすれば、その子が持つ力を存分に発揮し、幸せに過ごせるのか、そこを一番に考える姿勢が素敵です。

自分の子育てを振り返ると、つい大人（自分）に都合の良い子どもを「良い子」と捉えていることに気づかされます。それは自分にとって都合のよくないものを駄目なものとして排除してしまうことにもなりかねず、すごく怖いことだと思うのです。この本が出版されたのは1978年。45年前です。福祉先進国といわれるデンマークでは既に一人ひとりの多様性を認める価値観が大事にされていた

## 「ふれあいお茶会」で交流 フリースクールこという

認定こども園ひかりの子・フリースクールこというのメンバーが6月14日、紫波総合高校茶道部のお点前で地域の人たちとお茶会を楽しみました。会場は日詰教会（紫波町日詰下丸森）の礼拝堂。日本の伝統文化の一端に触れながら、世代の違う地域の人たちと交流しました。

お茶会は、紫波町保護司会（藤尾天右会長）、紫波町更生保護女性会（箱崎正子会長）などで組織する「社会を明るくする運動」紫波町推進委員会が主催。第73回社会を明るくする運動「ふれあいお茶会」として企画されました。更生保護活動の啓発を目的に毎年、小中学校などを会場に開かれてきましたが、新型コロナウイルス感染症の影響で近年は中止に。対面でのお茶会は4年ぶりで、初めて、こというのメンバーが招かれました。

礼拝堂の凜とした空気の中、茶道裏千家の稽古をしている茶道部の生徒たちがお点前を披露。参加した約20人が季節の菓子と共にお茶を味わいました。同茶道部の工藤七海部長（3年）は「コロナ禍が続く、外でお点前を披露するのは初めて。緊張しましたが良い経験になりました」と笑顔。お茶を運ぶ生徒から茶碗を受け取り、丁寧にお辞儀を返す小学生の微笑ましい姿も見られ、和やかなひとときとなりました。同保護司会の藤尾会長は「子どもたちの中に今日の体験が良い記憶として残り、生かされるとうれしい」と願っていました。



## 学園トピックス

～とっておきのニュースを選びました～

（取材・文 馬場恵）



## 親力フェ toiro



不登校について学んだり、ゆっくり話し合ったりする「親力フェtoiro」が今年度もカフェゆいの木（紫波町日詰中新田227-1）で開かれています。医療、福祉等、地域の様々な支援団体からなるこという応援団が主催。こというの保護者が中心となって運営しています。専門家の話に耳を傾け、交流の時間には守秘義務を守ってゆっくりとおしゃべり。悩みを家族だけで抱え込まず、互いに語り合い、つながることで、子どもたちの成長をゆったりと応援していくことが目的です。今年度は全6回の開催。秋以降10月21日、12月16日、来年2月17日に集まりを予定しています。定員各回15人。参加費1000円（講座のない2月は500円）。誰でも気軽に参加できます。専門家による各回1～2名の個人相談も受け付けています。詳細はフリースクールこというスタッフにお尋ねください。電話080-6012-2010（水曜9:00～15:30のみ対応可能です）

講師予定：10月 川村みや子さん（みちのく療育園医師）

12月 中村孝一さん（NPO法人 eboard代表）

## 夏休みに再会！「小学生同窓会」

### 青山幼稚園



岩手キリスト教学園では各施設が長期休業中などを利用し卒園児らが交流できる機会を設けています。このうち、青山幼稚園では7月26日、「小学生同窓会」が開かれ、盛岡広域にある小学校7校の1～3年生47人が集まり交流しました。子どもたちは一人ひとりマイクを持って自己紹介し一輪車、水泳、漢字の練習など今、頑張っていることを元気に発表。それぞれの成長が感じられるひとときとなりました。

3月に退職した保育教諭の山本愛先生、細野江理子先生も遠方から参加。とてもうれしそうに先生に話しかける子どもたちの笑顔が印象的でした。

## スクラッチアートに挑戦

### のぞみ学童保育クラブ

のぞみ学童保育クラブに通う小学生31人が7月25日、館坂橋教会・教会学校（CS）の夏期学校に参加し「クレヨンスクラッチアート」に挑戦しました。画用紙に明るい色のクレヨンを塗った後、黒や青などで塗りつぶし、真っ黒の画面に。このあと楊枝でひっかいて思い思いの絵や模様を描いていきます。平面にとどまらず作品を折りたたんで立体的な工作に仕上げる子どももいて、豊かな発想に驚かされました。

この日のテーマは「見えないものに目を注ぐ」です。黒い画面から素敵な模様が浮かびあがるように、神様の愛や周りの人への感謝、思いやりなど目に見えない大切なものに心を向けることを学びました。



## 「なんとかなる」生きやすさへの歩み

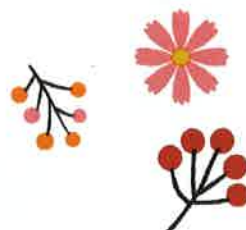
### 岩手県発達障がい支援センター「ウィズ」 長葎康紀さんが講演

親カフェc o i r oで6月24日、岩手県発達障がい支援センター「ウィズ」（岩手県立療育センター相談支援部）の長葎康紀さんが「『なんとかなる』生きやすさへの歩み」と題して講演しました。20人余りが参加し耳を傾けました。

特定の音やにおいが苦手、忘れ物が極端に多いなど、発達の特性からくる暮らしづらは周囲に理解されにくく、誤解やトラブルを招きがち。不登校の原因になっていることも少なくありません。

「多数派が『普通』と言われているだけ」「正しいことは時代で変わる」「みんな違ってみんないい」と長葎さん。まずは得意なこと、苦手なこと、考え方のクセなど「自分」を知ること、次に、いろいろな考え方や価値観があることを知り「満点」を目指しすぎないことで生きやすくなると助言しました。

苦しい場面に立たされる子どもたちを思いやり「生きるための逃げは有り」とも。「苦手なものは苦手」「必要なことはみんな違う」と達観した上で、当事者本人が自分で選択、決定し、責任を持つことができるよう一緒に考え、寄り添っていく大切さを語りました。



# きらめきつうしん

各園から子どもたちや教職員の様子をお伝えします

## 認定こども園青山幼稚園

保育教諭 高橋 翠(たかはし・みどり)

### 自立・協力・感謝 わくわくお楽しみ会

年長児だけの特別なプログラム、わくわくお楽しみ会。子ども達は1カ月ほど前から楽しみにし「あと何回寝たらお楽しみ会なの？」と毎日聞いていました。当日は心配されていた天気も回復し、目をキラキラさせて登園する子ども達。科学館でのプラネタリウム見学、クッキング、うちわ作り、自分達で作った夕食、花火と活動は盛沢山でしたが、どの活動にも「次は何するの?」「もっとやりたかった」と大いに楽しんでいる姿が見られました。中でも、謎解き冒険では、4人ずつにグループを作り協力して幼稚園の謎を解く冒険に挑戦しました。文字を読むことが難しい子に教えてあげる子、「次はここにいこう!」と引っ張ってくれる子、一人ひとりがグループの一員として協力しました。心も体も一回り大きくなった、ひと夏の思い出です。



## 認定こども園めぐみ遠野聖光こども園

副園長 菊池 千咲(きくち・ちさ)

### 親子一緒に楽しかったよ!

7月28日夕涼み会が行われました。コロナ感染のため、2年ほど子どもたちだけの夕涼み会ごっこでしたが今年は保護者1名参加可能とし親子での会としました。

「ワニワニパニック」「フォトスポット」「おもちゃすくい」「たまいれ」「お菓子をゲットだぜ」と5コーナーを回りました。一番人気は「ワニワニパニック」、牛乳パックで作ったワニをハンマーでたたきます。子どもたちは楽しそうにたたきワニに当たると嬉しそうに笑顔をみせていました。フォトスポットでは職員が前を向かせようと声をかけたり、手振り身振りで汗をかいていました。混雑緩和のため3グループに分け時間差での参加にしたことでゆったりと親子で楽しむことができました。子どもたちは「楽しかった」と夕涼み会後も余韻に浸り、遊びを楽しみました。



## 認定こども園ひかりの子

保育教諭 安積 結香（あづみ・ゆか）

### 様々な感触との出会い

暑さが厳しくなり汗をたくさんかきながら遊んでいる未満児の子どもたちです。そんな中、最近では水遊びや寒天遊び、氷遊びなどの感触あそびを楽しんでいます。はじめての感触に戸惑い様子を伺う子、そーっと指をつけ慎重に触れる子、目を輝かせ一目散に遊びはじめる子など様々な姿が見られています。経験を重ねていく中で水の冷たさに心地良さを感じたり氷が溶ける面白さに気づいたり、寒天や片栗粉の感触の変化を楽しみ全身で夏の遊びを味わっています。

神さまから与えられた恵みに感謝し、これからも遊びを通して様々な刺激、気づきを子どもたちと感じながら五感をたっぷり使い存分に楽しめる環境を整えていきたいと思っています。



## アガベ保育園

保育士 遠藤 祐美（えんどう・ゆみ）

### 夏ならではの喜びを全身で

私たちアガベ保育園では、日々の保育の中で、様々な感触を楽しむ遊びを取り入れています。子どもたちにとって感触遊びは、興味や関心を引き出すだけでなく、手指の動きを促したり、五感を刺激したりと心身の豊かな成長のための大切な経験の一つです。今まで絵の具や片栗粉、粘土などそれぞれ学年ごとに、今の子どもたちの姿に合わせた感触遊びを行ってきました。「冷たい」「やわらかい」「ペタペタする」と触れる物によって感触に違いがあることに気がついたり、「パンみたい」「色が変わった」と形や色が変わることによって、さらに遊びの幅が広がったりと、遊びを通しての様々な発見が、楽しさや面白さに繋がっています。友だちや保育者とのやりとりの中で、夏ならではの感触の喜びを全身で味わっている子どもたちです。





## 認定こども園のぞみこども園

保育教諭 武田 寛子 (たけだ・ひろこ)

工藤 穂乃花 (くどう・ほのか)

### 五感フル活用の感触遊び

楽しい夏が来ました。五感フル活用の感触遊びは、2歳児にじ・ほし組のこどもたちに大人気。寒天を前にすると「冷たい!」「ぷるぷるしてる!」「食べられるのかな」など、たくさんの感想が聞こえてきます。初めは恐る恐る観察し、指でつついて様子を見ていますが、すぐに慣れ、ちぎって、潰して…どんどん夢中に。「もっとやりたい!」「足で踏んだらどうなるの?」と次の展開を期待する声があがります。終わった後も「寒天楽しかった」「家でも作れるかな?」と会話が弾みました。

この夏は、何度も感触遊びを取り入れ、煮片栗粉、泡あそびにも挑戦。こどもと保育者が一緒になって楽しみ、素敵な思い出を紡ぐことができました。まもなく迎える秋ですが、さらなる一人ひとりの育ちを祈りつつ、教職員一同スクラム組んで保育にあたりたいと願っています。



## のぞみ学童保育クラブ

放課後児童支援員 遠藤 百合 (えんどう・ゆり)

### 豊かな体験を成長の糧に

この夏は猛暑が続き、学童の庭では大きなパラソルの下、子どもたちが元気いっぱい水遊びを楽しみました。4月に入所した1年生も新しい環境にすっかり慣れ、上級生に手伝ってもらい、一緒に行事や学童の掃除を頑張っています。

7月25日には、利用児童38名中31名で教会学校の夏期学校に参加。礼拝堂で礼拝を守ったあと「クレヨンスクラッチアート」に挑戦し、思い思いの素敵な作品を仕上げました。

夏休みは学童で過ごす時間が長くなりますが、かき氷や映画会、岩手県立博物館へのバス遠足、学童での「サンドアート」工作など楽しい行事も盛りたくさん。子どもたち一人ひとりが様々な体験を通して成長できるよう願っています。

こども園と連携しているため、長期休業中はお昼に給食を提供しました。保護者に大変喜んでいただいています。



## 認定こども園宮古ひかり

教頭 藤田 雅子（ふじた・まさこ）



## スキルアップを目指して

子どもの遊びがいかに大切であるか、遊びから沢山の学びがあることを私たちは知っています。様々な研修会に参加したり、子どもたちにどのような経験をさせたいかどのような環境が望ましいか等、子どもの姿を通して話し合っています。

7月29日に行われた今年の園内研修は遠野、日詰、盛岡にある自分たちの学園の視察研修を行いました。自分たちの学園のことを知ることと、実際にみて感じてより良い保育、環境へとつなげられることを目的とし、保育・給食・看護・事務あらゆる役割で課題をもって参加しました。職員多数で共有する貴重な時間でした。今後、各々にまとめ、プレゼン・討議をする機会を持ち、園のスキルアップを目指します。土曜日に開催させていただきました。保護者の方々、学園の皆様のご協力に感謝いたします。

## 家庭的保育事業ぶどうのき

園長 佐々木 妙子（ささき・たえこ）

### 暑い夏の強い味方！

猛暑が続いています。ぶどうのきには、お散歩・プール遊びの強い味方として熱中症指数計があります。アラームの音を聞いて「ピピッと鳴ったから急いで帰ろう」「ピピピピと鳴っているからプール遊びおしまいにしてよう」など熱中アラームが頼りになっています。子どもたちは、まだ遊びたいようですが、「ピピピって鳴っている、大変大変！」などと話すと保育者の様子から何か感じるようで早歩きしたり、プールから上がったります。

7月いっぱい1人盛岡にお引越しをしました。8月から0歳児が2人入りました。新しいメンバーが加わり賑やかなぶどうのきとなりそうです。





## 上堂ホサナ保育園

保育士 工藤 菜々江(くどう・ななえ)

### 「ことり組」は人気者

今年度は、4月から7月まで新入園児に恵まれた0歳児ことり組です。月の初めは元気な泣き声からのスタートですが、子ども達は日々職員の愛情をたっぷりと受け何日か経つと笑顔でお家の方と離れることができるようになりました。

小規模園ならではのゆったりとした家庭的な雰囲気の中で「今日はこんな姿が見られました!」「こんな仕草がとっても可愛いですよね♪」など保護者の方との会話も弾みます。

ことり組は、園の中でもとても人気者で他クラスのお兄さんお姉さんのやる気を引き出してくれる天才でもあります。「ことり組さんが来たぞ」とかっこいい所を見せようと頑張る姿がとっても可愛いです。クラスの枠を超えて楽しく刺激を受けながら過ごしています。

## フリースクールこといろ

ひかりの子 子育て支援課フリースクール係  
小野 香織(おの・かおり)

### 「平和」を思う

「ジョー・オダネル写真展」をこといろで見に行く朝に、平和について考える時間をもった。「平和ってどんなこと?」というスタッフの問いかけに、「コロナが収まること」「戦争が少しでもなくなること」と一人が即答。じっと考え込んでいた最年少のメンバーが、「わかった!話し合いをすることだ!」と言った。その意味を考え合うことでさらに深い思いに至り、胸がいっぱいになった。

会場で「焼き場に立つ少年」の解説を読んで聞かせると、涙を流すメンバーがいた。何度も涙を拭く姿に、辛かったらここで終わりにしてもいいと話したが、「辛くても最後まで見る」と言った。

「本物」に出会うことで、子どもたちの心が揺り動かされ、耕され、それぞれの思いが蓄えられる。神さまの恵みである。神さまのお計らいと愛に感謝。



ギター講座。アガペ保育園  
児とともに



畑の活動。今年も10  
種類以上を種苗。生  
長を楽しみに!

## きたくり保育園

保育士 森田 万央(もりた・まお)

### 暑い夏が始まった！

7月7日、夏まつりが行われました。きたくり保育園が始動して初めての大きな行事。年長さんを中心に、夏まつりに向けて園全体で気持ちを盛り上げていきました。去年の年長さんの姿を思い出し「カッコよかった」「私達もダンスしたい」と意気込んでいた子ども達。当日は年長さんの保護者や地域の方々の見守りの中、パレードや元気なダンスを披露しました。第2部の出店コーナーでは全園児がお面作りや魚釣りなどのゲームに夢中になって楽しむ姿がありました。様々な景品をもらい、笑顔いっぱい。保育園にとっても子ども達にとっても、活気に満ちた思い出の日となりました。



学園の教育・保育施設は2023年8月現在、認定こども園5施設、小規模保育所2施設、家庭的保育事業所1施設、保育所1施設です。他に学童保育クラブ1施設、フリースクール1施設を運営しています。キリスト教保育を柱に各園が連携し、地域の子育て世帯のよりどころとしての働きを目指しています。

#### ●認定こども園青山幼稚園

(保育機能施設すみれ)

盛岡市青山3-6-27

電話019-647-0223

#### ●認定こども園めぐみ遠野聖光こども園

遠野市中央通り3-10

電話0198-62-2150

#### ●認定こども園ひかりの子

(フリースクールこいろ)

紫波町日詰字下丸森130

電話019-672-2542

#### ●認定こども園のぞみこども園

(のぞみ学童保育クラブ)

盛岡市館向町21-7

電話019-624-5651

#### ●認定こども園宮古ひかり

宮古市西町3-3-26

電話0193-62-6845

#### ●上堂ホサナ保育園

盛岡市上堂1-4-10

電話019-656-0235

#### ●アガペ保育園

紫波町日詰字郡山駅184-1

電話019-613-2635

#### ●ぶどうのき

宮古市山口3丁目2-23

電話0193-65-6283

#### ●きたくり保育園

盛岡市厨川1-7-1

電話019-641-4330

## 学園ニュース掲示板～Information

### 2022年度 学園事業報告・決算承認 新監事に佐藤誠氏 第134回理事会

学校法人岩手キリスト教学園第134回理事会が5月30日、盛岡市の奥羽キリスト教センターで開催されました。各園と法人本部の2022年度事業報告・決算を承認。学園全体の2022年度収入支出総額は15億8189万7023円でした。また、善隣館書店のグループ化に伴い、監事の佐々木章氏（善隣館書店長）が5月30日付で退任。同31日付で佐藤誠氏（日詰幼稚園卒園生、日詰教会員）が評議員を退任し新監事に就任することが決まりました。理事会に先立って同日、119回評議員会も開かれ、諮問された2議案を可決しました。

### 第10回事務担当者研修会 インボイス制度、労務管理など

学園の事務研修会が8月4日、遠野市民センターで開かれました。各園と法人本部から15人が参加。税理士法人秋山会計事務所から講師を招き、インボイス制度導入に伴う準備などを確認しました。クイズ形式で労務管理のポイントも学習。事務に携わる教職員が互いに交流し、スキルアップにつなげる機会にしていきたいと願っています。

### 各園の中堅管理職者が交流 ひかりの子で学園情報交換会

副園長、教頭ら学園9施設の中堅管理職者17人が参加し2023年度第1回学園情報交換会が、認定こども園ひかりの子・アガベ保育園を会場に開かれました。2年前から始まり今回が5回目。新型コロナウイルス感染症が落ち着いたため、初めて対面で実施し学びを深めました。

午前中は、子どもが主体的に遊ぶ環境を大切にしたい、ひかりの子とアガベ保育園の園庭や「コーナー保育」の取り組みを見学し意見交換。午後は四つのグループに分かれて、コロナ禍後の行事の持ち方や保育現場へのICTの導入、ジェンダーへの配慮など自由なテーマで話し合いました。

表紙の写真：今号は遊びの中で成長する子どもたちの姿を集めました。上段は思いきり水遊びを楽しむ認定こども園宮古ひかりの園児たち。下段は左から「園庭で泥遊びに熱中する認定こども園ひかりの子の園児」「スクラッチアートに挑む、のぞみ学童保育クラブの小学生」「よちよち歩きで近づいてきた0歳児さんと、その子を優しい笑顔で迎える園児。遠野聖光こども園での一枚」です。

### 編集後記

今年の高校野球、東北勢が3校も全国の強豪校に競り勝ちベスト8に勝ち進んだ！100年来、開かなかった扉が開き優勝旗が白河の関を越えた昨年に続き、東北勢のレベルが上がっていることは確か。高校生たちの挑戦に声援を送り勇気をもらっています。目の前にいる子どもたちが将来に憧れを持って、夢を育める環境づくりの一端を担っていききたいと思う今日この頃です。（敬）

3年ぶりに姉家族に会いに行ってきました。姉はダイエットに成功し、姪と甥はすっかり大人になり敬語で話されてしまいました。3年という月日は長かったなあとしみじみと感じる夏でした。（小）

戦前戦後と善隣館をはじめ岩手でのキリスト教教育事業に人生を献げたシュレーヤ夫妻の自伝を読みました。善隣館100年の歩みを語る講演にも耳を傾ける機会があり、先人たちが志を曲げることなく数々の試練を乗り越えてきたことを学びました。この歩みを止めることなく、現代にあった方法で未来につなげていかなければと思います。（恵）

### 2023年度の園児・職員数（8月現在）

|        | 園名    | 3歳未満 | 3歳以上 | 合計  | 教職員 |
|--------|-------|------|------|-----|-----|
| 認定こども園 | 青山    | 7    | 54   | 61  | 20  |
|        | 遠野    | 32   | 49   | 81  | 25  |
|        | ひかりの子 | 45   | 126  | 171 | 42  |
|        | のぞみ   | 46   | 86   | 132 | 45  |
|        | 宮古ひかり | 39   | 90   | 129 | 37  |
| 小規模保育所 | ホサナ   | 11   | 0    | 11  | 8   |
|        | アガベ   | 19   | 0    | 19  | 11  |
| 家庭的保育  | ぶどうのき | 5    | 0    | 5   | 4   |
| 保育所    | きたくり  | 30   | 38   | 68  | 27  |
| 合計     |       | 234  | 443  | 677 | 219 |

※のぞみ学童・在籍者37人、フリースクールこころ・在籍者10人

※青山・のぞみ、遠野・宮古ひかり、ひかりの子・アガベは園長兼任（教職員実人数216人）

※法人本部職員は青山に1人、のぞみに3人（善隣館書店出向1人を含む）所属

※満3歳児は3歳未満に数えています

きらめき第9号 発行日／2023年8月30日

発行人／村上義治

編集／学校法人岩手キリスト教学園

法人本部：岩手県盛岡市上堂一丁目4番10号

TEL019-656-0237 FAX019-656-8672

郵便振替：02270-2-129076

名義：学校法人岩手キリスト教学園